

機関番号：14401

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19320051

研究課題名（和文）

語り手と女：ジェンダーを巡るイランの文学的言説の研究

研究課題名（英文）

Women and Narration: Gendered Narratives in Oral and Written Persian Literature

研究代表者

藤元 優子 (FUJIMOTO YUKO)

大阪大学・世界言語研究センター・教授

研究者番号：40152590

研究成果の概要（和文）：本研究はイランにおける多様な文学的言説を、ジェンダーを分析的に用いて総合的に検証することで、文化的周縁に置かれ、常に歪められてきたイラン女性の実像を明らかにし、ひいてはイスラーム世界に対する認識の刷新を図ろうとした。古典から現代までの文学作品のみならず、民間歌謡、民話、祭祀や宗教儀礼をも対象とした多様なテキストの分析を通して、複数の時代・階層・ジェンダーにまたがる女性の文学的言説の豊潤な蓄積を立証することができた。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to use gender analytically so as to prove Persian literary discourse not to be absent from women who have been situated in the cultural periphery and whose voice was too faint to be heard in the mainstream of the brilliant Persian literary heritage. Through the analysis of texts from classic to contemporary literature as well as women's folk song, folk tale, festival and religious ritual, we could affirm the existence of rich accumulation of women's literary discourse from different ages, strata, and gender.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	3,500,000	1,050,000	4,550,000
2008年度	3,000,000	900,000	3,900,000
2009年度	3,000,000	900,000	3,900,000
2010年度	4,000,000	1,200,000	5,200,000
年度			
総計	13,500,000	4,050,000	17,550,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：その他の各国文学、イラン、ジェンダー、国際研究者交流、イラン：イギリス：アメリカ：スイス：ドイツ

## 1. 研究開始当初の背景

日本において本格的なペルシア文学研究が始まって以来半世紀を超えた現在、第三、第四世代の我々研究者に要求されているのは、概論や翻訳・紹介から、より広い視野を有した発展的・独創的研究である。本研究は、次のような問題意識を起点とした発展的研究を目指した。

ペルシア文学の千年を超える歴史を通しての顕著な特徴のひとつとして、創作者としての女性の偏在が挙げられる。文学史に名を残した女性は数少なく、女性は専ら男性によって語られる存在に留まってきたといっても過言ではない。そして、この傾向が近代化の進んだ現代文学においても長らく続き、1950年代まで女性作家が現れず、その後の

30 年間にも十指に満たない数しか認められてこなかったのはなぜか、という問題は、現代小説を専門分野とする研究代表者（藤元）にとって、簡単に解けない謎のひとつである。先行研究はこの理由として、女性の公的分野での活動を圧殺してきたイスラームの父権主義的構造と共に、シーア派の12イマーム派を国教として取り入れた被征服者としてのイラン人の文化的屈折を指摘しているが、この問題の根深さを考える時、私たちが宗教以外の様々な要素に、歴史を遡って検討を加える必要があることは明白である。

一方、研究代表者は、研究分担者として参画した別の基盤研究（科学研究費補助金、基盤研究（B）「イランの祭祀・信仰に関するデータベースの構築とペルシア文学論への応用研究」、課題番号：16320044、研究代表者：森茂男）において、女性による願掛け儀礼に取り組み、いわゆる純文学の範疇から大きく逸脱するものの、文学性を有する女性導師の語り注目した。そして、近年まで識字率の低かったイラン女性のエートスを認識するには、このような「語り」をも包含する「文学的言説」を研究対象に組み込む必要があることを、強く意識するようになった。そうしてこそ、イランの複合的且つ重層的な文学的土壌に生み出された女性の姿を、正しく掬い取ることができるはずだからである。

## 2. 研究の目的

### (1) 研究全体を通じた目標

本研究は、イランにおける文学的言説を、ジェンダーを分析的に用いて総合的に検証することで、文化的周縁に置かれ、常に歪められてきたイラン女性の実像を明らかにし、ひいてはイスラーム世界に対する認識の刷新を図ろうとする。「語り」をキーワードに、古典文学から宗教儀礼やドキュメンタリー文学に見られる女性のナラティブまで、時代やジャンルの異なる研究対象を持つ研究者が、女性という共通の研究対象について複数の視点から共同研究を行って、中世以降現代にいたるジェンダーを巡る文学的緒言説を俯瞰し、相関的、有機的に捉えることで、イランにおけるジェンダー構造とセクシュアリティのあり方を解明する。

### (2) 学術的特色、独創性

本研究が対象とする文学的言説のこれまでの研究を見ると、古典文学や口承文芸のそれが、テキスト分析中心の旧来の手法で行われる一方、現代文学や戦争回顧録などの現代ナラティブ研究は、素材の政治性の高さもあって、政治との関係性が前面に押し出される傾向にあった。また、宗教に関係する言説も、とくに1979年のイスラ

ム革命以降、現代史上の事件に関係する高度に社会化、政治化された議論に繋がることが多かった。そして、各ジャンルの研究は個別に行われ、それらの関係性を見出そうとする視点に欠けていた。文学的言説を純文学の高みから見下ろし、大衆小説や昔話の語りなど一顧だにしない傾向は、とくにイラン本国に於いて現在も顕著である。これに対し、本研究は、各時代、ジャンルを専門とする研究者が、女性という共通の研究対象について複数の視点から共同研究を行い、ジェンダーを巡る文学的緒言説を相関的、有機的に捉えることで、ペルシア文学への新たな視点を提供しうる点に、最大の特色がある。

次に、その独創性は、「語り」を共通の媒体として、古典詩で象徴化された美女から昔話の欲深な継母まで、あるいは現代小説の都会暮らしのインテリ女性から願掛け儀礼の席に座る信心深い老女まで、可能な限り多数の「イラン女性」を研究対象とし、彼女たちの実像をイラン文化の中に位置づけようとする点にある。

## 3. 研究の方法

研究は、次の三段階に分けて行われた。

### (1) 各研究者が取り組む特定の時代とジャンルに見られる女性像の抽出：

この段階は、主として個人レベルでの調査・研究によって行われた。具体的な研究テーマは、①古典文学に見る女性像、②女性による民間歌謡、③物語文学に見る女性のエンパワーメント、④近代期イランのナショナリスト言説に見る女性像、⑤現地調査に基づく女性に関する口承文芸資料分析、⑥女性の宗教儀礼におけるナラティブ、⑦近現代詩における女性詩人の実像と作品、⑧男性現代詩人の描く女性像、⑨1980年代以降の女性作家群、⑩女性による戦争記録文学、と多岐にわたり、各研究者が独自に研究を進めた。

これに並行して、歌謡や儀礼の現地調査、現代文学者との共同研究や資料収集のために、研究協力者、連携研究者、研究協力者のうち延べ13名が、イラン、ドイツ、およびアルメニアに出張した。

(2) より広い文化的文脈の中に置いた分析：計7回の研究会・講演会が、各自の研究をより広い文化的文脈に置いた検証の場となった。平成19年度にはゾフレ・ロルザンギャネ氏による女性の宗教儀礼ゾフレに関する講演会、平成20年度には重要な女性詩人スィーミン・ベフバハーニー氏ほか1名を招聘しての講演会と研究の中間報告会を開いた。平成21年度には、6月と

11月に気鋭の研究者ホマー・カートウズ・ミアン氏とタキー・プールナムダーリヤーン氏、および著名な女性作家シャハルヌーシュ・パールスィーブル氏を招いて、古典及び現代文学における女性に関する講演会を開催した。また、平成22年6月には、連携研究者2名による現代女性詩人に関する研究発表を中心とした研究会も行った。各講演会・研究会では活発な質疑応答が行われ、各研究者がそれぞれの研究対象を文学史、文化史を俯瞰しつつ慎重に考察することの重要性が確認された。

(3) 各研究者の成果を持ち寄った総合的考察：

平成22年11月の二日間、海外から4名の研究協力者を招聘し、研究成果を纏めるためのワークショップを行った。研究に携わった全員が英語もしくはペルシア語で研究発表を行い、活発な討論を行った。

4. 研究成果

本研究の成果は、以下の三点である。

(1) 研究報告書の作成：

四年間の研究の纏めとして、平成23年3月に348頁にわたる研究報告書を作成した。ここには、研究期間内に招聘した5名の詩人・作家・研究者の公演と質疑の全てと、上記のワークショップでの発表論文14点とその後の質疑・討論をそのまま収録した。英語、ペルシア語、日本語の三カ国語が混在したいわば生の記録であるが、この報告書を一次資料とし、今後も継続的に研究を行うことが可能になった。

(2) 研究協力によるイラン文学の翻訳紹介：

平成20年度に、現代文学分野の4名が協力して、文芸誌『すばる』での「イラン女性文学特集」を実現した。50ページにも満たない特集であるが、昨今の厳しい外国文学の翻訳出版事情を考えれば、研究協力による国民一般に向けた成果発表として特筆に値する。

(3) 海外の文学者・研究者との連携・研究協力の推進：

上記のように、本研究を通じて、イランの著名な文学者や外国人イラン研究者と連携し、研究協力を行うことができた。これは、イラン文学研究の規模が小さく、国内研究者だけでは大きなプロジェクトを運営することが困難な現状を鑑みれば非常に重要な成果であり、今後も継続して交流を進めることが期待される。

(4) イランにおける資料収集によるデータ

の蓄積：

口承文芸および女性の宗教儀礼におけるナラティヴに関する資料は、文字起こしと画像資料の整理を行った。目標としたデータベース化と公開には至らなかったが、この蓄積されたデータを今後の研究に生かすことを計画している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計8件)

①中村菜穂、暗闇からの飛翔—フォルグ・ファッロフザード(1935-1967)における詩的現代性をめぐる試論、イラン研究、査読有、第5号、2009、210-233

②藤元優子、アボルファズルのソフレ：語りの記録、イラン研究、査読有、第4号、2008、179-206

③藤元優子・石井啓一郎・前田君江・鈴木珠里、特集 イラン女性文学、すばる、査読無、第30巻、2008、208-252

〔学会発表〕(計2件)

①竹原新、イラン民話の中の恋人たち、日本昔話学会2010年度研究大会 シンポジウム 基調報告、2010.7.4.、武庫川女子大学

②タンハー、ザフラー ターヘリー、A Broader Space for the Feminine in Rumi's Teaching、International Conference on Islam and the Human Being、2009.5.29.、韓国外国語大学(韓国・ソウル市)

〔図書〕(計4件)

①藤元優子編、語り手と女：ジェンダーを巡るイランの文学的言説の研究 研究報告書、大阪大学世界言語研究センター、2011、348p.

②山中由里子、今関俊子編、『涙の文化学』、青簡社、2009、104-115

③山岸智子、加藤千香子・細谷実編、暴力と戦争(ジェンダー史叢書5)、明石書店、2009、154-175

6. 研究組織

(1) 研究代表者

藤元 優子 (FUJIMOTO YUKO)

大阪大学・世界言語研究センター・教授

研究者番号：40152590

(2)連携研究者

アーベディーシャル、 カームヤール  
(ABEDISHAR KAMYAR)  
大阪大学・世界言語研究センター・特任准教授  
研究者番号：30573018  
(H21より参画)

佐々木 あや乃 (SASAKI AYANO)  
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授  
研究者番号：60272613  
(H19まで研究分担者、H20から連携研究者として参画)

鈴木 珠里 (SUZUKI SHURI)  
大東文化大学・国際関係学部・非常勤講師  
研究者番号：70449114  
(H19まで研究分担者、H20から連携研究者として参画)

竹原 新 (TAKEHARA SHIN)  
大阪大学・世界言語研究センター・准教授  
研究者番号：20324874  
(H19まで研究分担者、H20から連携研究者として参画)

タンハー、ザフラー ターヘリー (TANHA, ZAHRA TAHERI)  
東京外国語大学・世界言語社会教育センター・特任外国語教員  
研究者番号：50401419  
(H19まで研究分担者、H20から連携研究者として参画)

藤井 守男 (FUJII MORIO)  
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授  
研究者番号：90143619  
(H19まで研究分担者、H20から連携研究者として参画)

前田 君江 (MAEDA KIMIE)  
東京大学・総合文化研究科・非常勤講師  
研究者番号：40466818  
(H21より参画)

山岸智子 (YAMAGISHI TOMOKO)  
明治大学・政治経済学部・教授  
研究者番号：50272480  
(H19まで研究分担者、H20から連携研究者として参画)

山中 由里子 (YAMANAKA YURIKO)  
国立民族学博物館・民族文化研究部・准教

授

研究者番号：20251390  
(H19まで研究分担者、H20から連携研究者として参画)